

(11) Publication number: Japanese Unexamined Patent Application, First Publication  
No. Sho 62-18379

(54) Title: COVERS FOR FRONT WHEELS OF VEHICLE WITH SADDLE SEAT  
ABSTRACT

(72) Inventor: TAMURA, Gen

PURPOSE: To provide covers for front wheels of a vehicle with a saddle seat, which enables improvement of air draft performance for an engine of the vehicle.

CONSTITUTION: Covers 42 and 42 for covering right and left front wheels 12 and 12 are respectively attached to supporting elements 26 and 30 of the front wheels 12 and 12. A wall 45 of each of the covers 42 and 42, which is disposed closer to the center line of a vehicle 10 than is the front wheel 12, is used for guiding air to an engine E.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-18379

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)1月27日

B 62 K 5/00  
B 62 J 15/00

7535-3D  
B-6862-3D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 鞍乗り型車輛の前部車輪覆い

⑯ 特 願 昭60-156885

⑰ 出 願 昭60(1985)7月18日

⑱ 発 明 者 田 村 玄 国分寺市南町2-3-8 コーポ白樺202号

⑲ 出 願 人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 江 原 望 外2名

明 細 書

1. 発明の名称 鞍乗り型車輛の前部車輪覆い

2. 特許請求の範囲

車体フレームの前後方向中央部、前部、上部に、それぞれ、エンジン、左、右の前車輪、鞍型座席を有するとともに、車体フレームの前部を上方から覆う車体カバーを有する鞍乗り型車輛において、

左、右の前車輪を覆う前部車輪覆いを、前車輪支持部材に取り付け、前車輪に対して車幅方向中心寄りに位置する該前部車輪覆いの基壁をもって、エンジンに走行風を誘導せしめることを特徴とする鞍乗り型車輛。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、自動二輪車と同様に、運転者が鞍型の座席に跨って乗車する種類の鞍乗り型車輛に係り、特に、左、右の前車輪を備えた鞍乗り型車輛の前車輪を覆う前部車輪覆い(フロント・フェンダー)に関するものである。

従来技術

この車輛では自動二輪車と同様に、パイプ材で形成した車体フレーム、棒状ハンドル、鞍型座席を有する他、低圧タイヤを採用しており、不整地走行が可能であって、身体重心を移動させて操縦を楽しむことが可能である。

斯かるバギー車では、前部車体カバーおよびこれと一体の前部車輪覆いを設けるのが一般的である(例えば、実開昭56-73694号公報参照)。

発明が解決しようとする問題点

ところが、前部車体カバーおよびこれと一体に形成された前部車輪覆いは、車体前後方向中央部に配設されたエンジンに対する走行風の一部を遮断する。

問題点を解決するための手段および作用

本発明の目的は、前部車輪覆いの配設関係の工夫により、エンジンに対する通風性の向上を計る点にある。

この目的は、車体フレームの前部を上方から覆う車体カバーを有する鞍乗り型車輛において、左、右の前車輪を覆う前部車輪覆いを、前車輪支持部

材に取り付け、前車輪に対して車幅方向中心寄りに位置する該前部車輪覆いの基壁をもって、エンジンに走行風を誘導せしめることによって達成される。

斯様に、前部車輪覆いを車体カバーと独立して形成することにより、従来、両者の接続部分で遮断されていた走行風をエンジン側に有効に導くことが可能である。

#### 実 施 例

以下、第1図ないし第5図に示した本発明の一実施例について説明する。

第1図は、鞍乗り型四輪バギー車10を概略左側正面図として示しており、該鞍乗り型四輪バギー車10は、低圧幅広タイヤTを装着した各一對の前車輪12、後車輪14を備えとともに自動二輪車と同様な棒状ハンドル16を備えている。

また、車体フレーム20の前後方向中央部にエンジンEが搭載され、エンジンEの上位に燃料タンクTA、鞍型座席Sが配設され、エンジンEの両側方に位置して、左、右一對の足載せ部材(ステ

ップ)18が、車体フレーム20の主要部材である左、右の底部フレーム22に付設されている。底部フレーム22は、左、右の前車輪12、12で挟まれる空間部にまで伸長して前部フレーム24になされている。そして、左、右の前車輪12は、上、下の腕部材26、28に連結されたナックル30によって支持され(ダブル・ウィッシュボン式サスペンション)、左、右の後車輪14は、リヤ・フォーク32によって支持されている(以上、第1図ないし第4図参照)。

さらに、左、右前車輪12、12の間における前部フレーム24の上方に位置して、車体カバー40が燃料タンクTAに連なって配設され、該車体カバー40の両側辺から間隔を置いて、前車輪12、12を覆う前部車輪覆い42、42が配設されている。この前部車輪覆い42は、第5図に斜視図として示す様に、開口46、48、50を有する基壁44と彎曲壁52とで形成され、基壁44の後方伸長部が、第3図図示の如く、エンジンE方向に指向した偏向壁45になされている。なお、前部車輪覆い42は、基壁44の開口46、48を、緩衝ゴム47、49を介して貫通する二股

状上位腕部材26、および同じく開口50を緩衝ゴム51を介して貫通するナックル30の突片によって支持されており、これ等緩衝ゴム47、49、51を介した支持関係により、前車輪12の操舵偏向および上下動が無理なく保証される。

本実施例は、前記の様に構成されており、車輛走行の間、車体カバー40の下方に進入した走行風Aは必然的にエンジンEに向い、また車体前方から見てエンジンEよりも車体外方であって、前部車輪覆い42よりも車体中心寄り位置を流れる走行風Bは、車体カバーと前部車輪覆いの接続部が存在しないが故に基壁44本体およびその伸長部である偏向壁45によって無理なく誘導されてエンジンEに向って流れ、エンジンEの冷却効率を向上させる。

#### 発明の効果

以上の説明から明らかな様に、本発明により鞍乗り型車輛では、左、右の前車輪を覆う前部車輪覆いを、前車輪支持部材に取り付け、前車輪に対して車幅方向中心寄りに位置する該前部車輪覆い

の基壁をもって、エンジンに走行風を誘導せしめる構造を採用したため、従来の車輛では有効に利用されなかった前車輪近傍の走行風を積極的に車体前後方向中央部のエンジンに集め、エンジンの冷却を促進することが可能である。

#### 4. 図面の簡単な説明

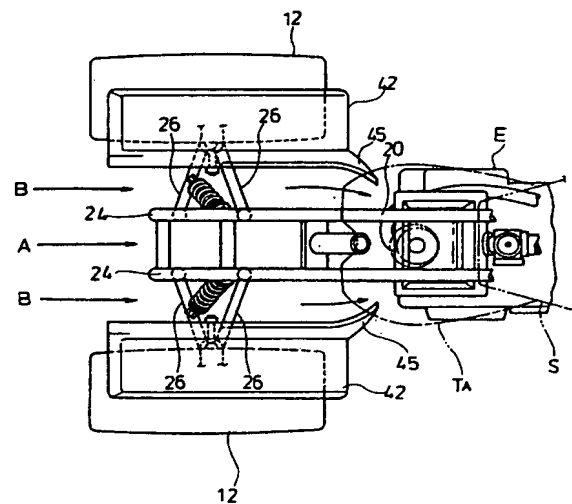
第1図は本発明の一実施例に係る前部車輪覆いを備えた鞍乗り型四輪バギー車の車体左側正面図、第2図はその要部斜視図、第3図はその車体前半部概略要部平面図、第4図は該バギー車の要部前面図、第5図は前記前部車輪覆いの斜視図である。

10…鞍乗り型四輪バギー車、12…前車輪、14…後車輪、16…棒状ハンドル、18…足載せ部材、20…車体フレーム、22…底部フレーム、24…前部フレーム、26…腕部材、28…腕部材、30…ナックル、32…リヤ・フォーク、40…車体カバー、42…前部車輪覆い、44…基壁、45…偏向壁、46…開口、47…緩衝ゴム、48…開口、49…緩衝ゴム、50…開口、51…緩衝ゴム、52…彎曲壁、E…エンジン、T…低圧幅広タイヤ、TA…燃料

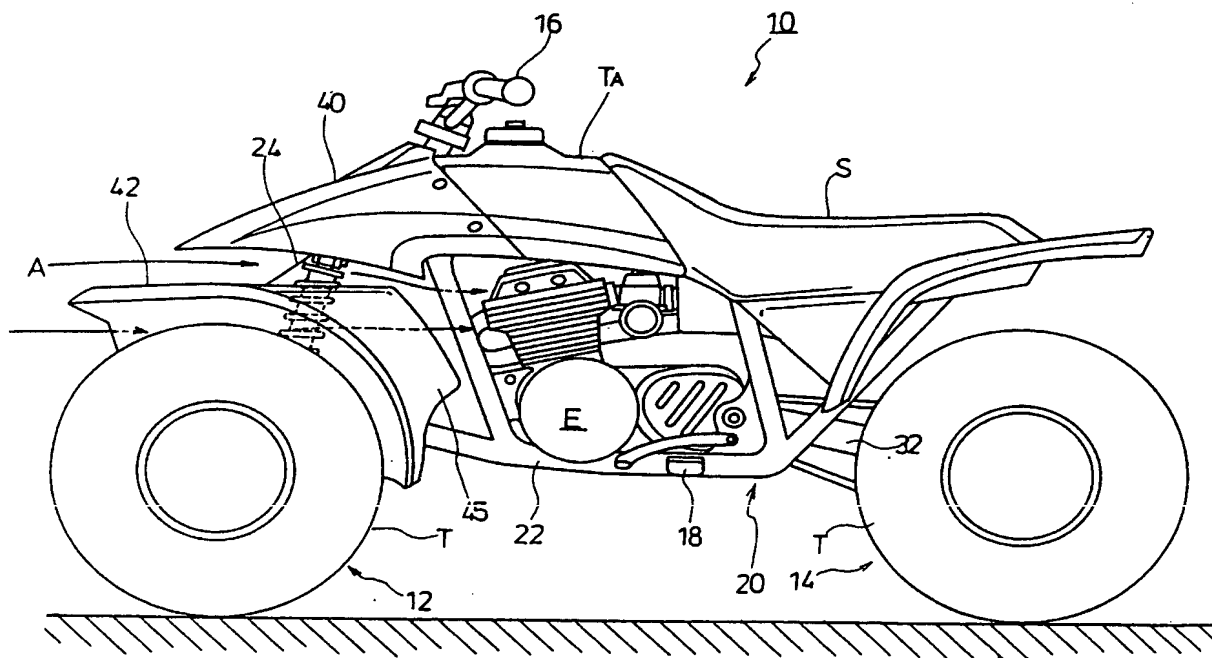
タンク。

第 3 図

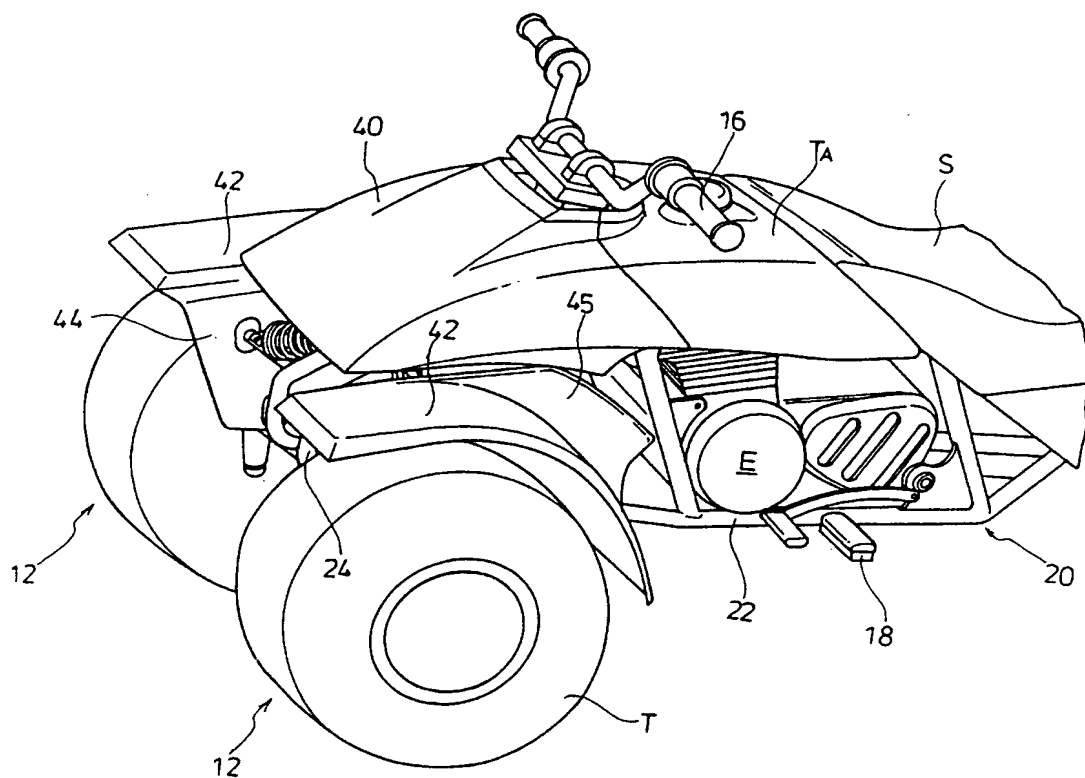
代理人 弁理士 江 原 望  
外 2 名



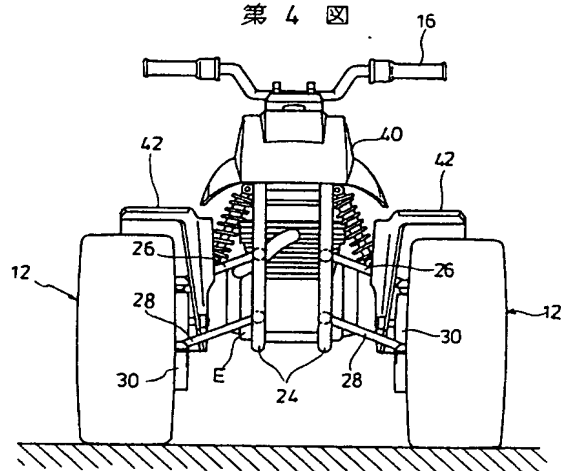
第 1 図



第 2 図



第 4 図



第 5 図

